

【東日本大震災 そのときのために】

(中) 液状化 地元の地盤 歴史知って

2011.5.3 07:26 (3/3ページ)

調査の結果、液状化の危険が高いとされた場所に
住む場合、地盤改良工事ができる。地盤調査などを
請け負う「地盤ネット」(江東区)の二宮浩一顧問
は「セメント系の固化剤を地面に注入して地盤を固
める方法がある。一戸建ての場合、30万～150
万円」。

実際に液状化で傾いたり、沈んだりしてしまった
家屋への対策はあるのか。

二宮さんによると、基礎の下に仮設の耐圧盤を設
けて建物をジャッキアップし、隙間に発泡モルタル
を圧入充填(じゅうてん)する工法があり、一般的
に費用は500万円以下。一方、基礎の下から、固
い地盤の「支持層」まで鋼杭(こうぐい)を打ち込
む「アンダーピニング」と呼ばれる工法は、1千万円以上に膨らむこともあるという。
「余震は長引いており、工事後に被災した場合、保険金が出る工事を契約するのが有効」
(二宮さん)

家が地震による液状化で傾いた場合、地震保険が使える。鉄筋コンクリートの家屋は、
液状化による基礎全体の傾斜が1・2度以上で「全損」扱いとなる。ただ、「一部損」
「半損」と違い、「全損」で保険金が支払われると契約が終了。このため、「全損」とさ
れた場合、保険を再契約する必要がある。

日本損害保険協会によると、震災以降、地震保険の問い合わせは増加傾向で、「明らか
に関心が高まっている」(広報担当者)という。



液状化現象でひびの入った駐車場。周囲の家は
人けが少なく、警察官が巡回連絡を行っていた
= 4月9日、千葉県浦安市今川